



小学校・中学校の英語教科書における地域素材の記述分析：
札幌市・北海道で採用されている英語教科書の地域素材「雪」の記述に着目して

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2024-12-13 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 中村, 邦彦, 神林, 裕子, 種谷, 富茂華 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.32150/0002000359

小学校・中学校の英語教科書における地域素材の記述分析

— 札幌市・北海道で採用されている英語教科書の地域素材「雪」の記述に着目して —

中村 邦彦・神林 裕子*・種谷富茂華**

北海道教育大学大学院教育学研究科・高度教職実践専攻

*札幌国際大学短期大学部 幼児教育保育学科

**札幌市立藤の沢小学校

Analysis of Descriptions of Local Materials in Elementary and Junior High School English Textbooks

— Focusing on Descriptions of “Snow” in Text books —

NAKAMURA Kunihiko, KAMBAYASHI Yuko* and TANEYA Tomoka**

Graduate School of Education, Sapporo Campus, Hokkaido University of Education

*Department of Early Childhood Education, Sapporo International Junior College

**Sapporo Fujinosawa Elementary School

概 要

本稿は、小学校と中学校での英語学習における学びの一貫性として有効な地域素材に着目し、政令指定都市としての札幌市及び北海道内の市町村で採用されている小・中学校英語教科書総計17冊において、「雪」及び「雪」に関連する記述がどのように記載されているのか、またそれはどのような学習活動を想定して記載されているか調査したものである。「雪」及び「雪」に関連する記述は小学校では少なく、中学校では出版社に違いはあるものの「話すこと（やり取り）」の領域における記述が多かった。この結果を踏まえ、小中一貫した教育の視点から、主に小学校において「雪」の英語学習を設定することの有効性が明らかとなった。

1. はじめに

現行小学校及び中学校学習指導要領は平成29年に告示された。中学校では、同解説外国語編の中で改訂の要点として、目標の改善、内容構成の改

善、内容の改善・充実、学習指導の改善・充実の4点が挙げられている。この4点に共通して記載されているのが、「小学校での学びを踏まえ」「小・中・高等学校を通じた」「小学校や高等学校における学習内容との接続の観点も踏まえ」「小・中

学校の接続を重視するとともに」等、今回の改訂で外国語科が新たに導入された小学校との接続の観点である。本稿は、小学校での英語学習と中学校での英語学習における学びの一貫性として有効となる地域素材に着目し、札幌市及び北海道内の市町村で採用されている小・中学校英語教科書において、「雪」及び「雪」に関連する記述がどのように記載されているのか、またそれはどのような学習活動を想定して記載されているか調査したものである。その結果を踏まえ、主に小学校において、どのような学習活動を設定することが望ましいか検討した。

2. 学習指導要領解説等における小学校・中学校の教材の選定について

札幌市や北海道を象徴する「雪」は、地域環境を学ぶ教材として、高橋ら（1994）をはじめとして、その価値が注目されてきた。

英語学習における教材の選定について、小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編では「日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然などを取り上げる際は、児童の発達の段階に配慮し、それぞれの地域の家庭や学校生活などを中心としたもの、また、例えば他教科等で学んだ歴史上の人物や建造物、伝統文化、自然等を取り上げ、児童が興味・関心をもって取り組めるような題材を選択することが大切である（下線は筆者）」としている。

一方、中学校学習指導要領解説外国語編では「英語を使用している人々を中心とする世界の人々や日本人の日常生活、風俗習慣、物語、地理、歴史、伝統文化、自然科学などに関するものの中から、生徒の発達の段階や興味・関心に即して適切な題材を効果的に取り上げる」（下線は筆者）こととしている。そして「英語の学習を通して、人々の生活や風俗習慣の相違に一層の関心をもたせ、文化の多様性に着目させることが必要である」としている。

「雪」は、札幌市や北海道の児童生徒にとって

半年近く身近にあるものであり、日常生活の一部といえる。小学校学習指導要領解説外国語活動・外国語編では「学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄」は「児童はそれらに対する自分の考えや気持ちを既にもっていたり、もたせやすかったりする」とされている。

また札幌市では「札幌らしい特色ある学校教育の推進」として、中核をなす三つの共通テーマ「雪」「環境」「読書」を設定している（札幌市教育委員会「令和5年度札幌市学校教育の重点」）。「雪」については「札幌の大切な特色の一つであり、『札幌らしさ』を学ぶための貴重な資源である雪を通して、ふるさと札幌への思いを強め、雪に親しみ、雪と共生しようとする心を培うこととしている。関連して、「令和2年度から使用する小学校用教科用図書調査研究の基本方針」では、小学校外国語科における調査研究の具体項目として「札幌らしさを生かした学習活動の推進」が設定されている。「地域の自然環境・人的環境・文化的環境を生かした学習活動を通して、自分にとって身近な地域への関心を高めながら学ぶことが可能な内容となっているか」が調査研究の具体的内容とされている。一方、「令和3年度から使用する中学校用教科用図書及び中等教育学校前期課程用の教科用図書の調査研究の基本方針」においても、小学校外国語科における調査研究項目の具体項目は「札幌らしさを生かした学習活動の取扱い」であり、「身近な人や事柄、地域などを生かした学習活動を通して、英語を学ぶことへの意欲を高めることが可能な内容となっているか」が具体的内容となっている。さらに、「小中一貫した学習活動の取扱い」という具体項目も設定されており、「小学校の学習内容とのつながりを意識した構成の工夫等により、生徒が小学校で身に付けた資質・能力を一層伸ばすことが可能な内容となっているか」が調査研究の具体的内容となっている。札幌市においては、小学校及び中学校において、札幌らしさを感じる共通の地域教材を活用した学習活動を設定し、小中一貫した学習活動を推進することを念頭に置いていることがわかる。

そこで本稿では、この価値ある地域素材「雪」に着目し、札幌市及び北海道内の市町村で採用されている小・中学校英語教科書における「雪」及び「雪」に関連する記述の分析を行った。第4学年での「大雪から暮らしを守る」、第5学年での「冬の天気」などのように限定した「地域教材」ではなく、日常にある「雪」を通して子どもが様々な観点から地域をとらえることができるという意味で「地域素材」とした。今回の教科書の記述分析の結果を踏まえ、小中一貫した学習活動を推進する視点から、中学校においてより一層資質・能力を伸ばすことができるよう、小学校における「雪」の英語学習のあり方について考察していく。

3. 地域教材における先行研究について

義務教育段階における地域教材の活用の有効性については様々な教科や領域で論じられているが丹藤（2020）は、学習指導要領において、「言語の使用場面の例として『地域の行事』が挙げられて」いることを指摘し、「地域教材は教科書の内容や言語活動を補うものとして、大変有効な教材である」としている。さらに、地域教材のねらいは、「英語力、コミュニケーション能力の育成であり、地域について学んだことを世界に発信する資質・能力を身に付けさせること」であり、それに加えて、「地域のことをより深く学び、地域を愛する心情を涵養するという目的も設定されている」と指摘している。

二五（2019）は、小学校での英語教育の導入に伴い、早い段階から子どもたちを英語嫌いにさせていないかという危惧を挙げ、「児童・生徒の英語学習への動機づけを高めるべく、地域を題材とした教材を取り入れることが1つの解決策といえる」と、地域教材が英語学習の意欲につながることを示唆している。

神林と西森（2023）は、札幌市雪対策室を中心として札幌市教育委員会職員、小学校教諭、各区土木センター職員等によりプロジェクトチームで構成されている札幌雪学習プロジェクトにおい

て、「雪」を素材とした小学校英語の実践を重ねている。「雪学習パッケージ」として「実体験を伴う外国語の学習はとても有効であり、雪国札幌に住む子どもたちにとってこの冬・雪に関する外国語の取り組みもとても有意義」と結論づけている。

こうした先行研究を見ても、地域教材は学習者の暮らす愛着のある土地のことを魅力的に英語で発信したいという英語の学習意欲を高め、より豊かなコミュニケーション活動を促進していくものといえるだろう。

4. 研究課題について

本稿では上記のような「地域教材」の有効性と課題に着目し、教科書に記載されている「地域素材」を活用する方法に着目した。丹藤（2020）は英語学習における「地域教材」を使用するときの課題に「開発費の問題」「時間的な問題」「地域による題材の偏り」「活用の問題」を挙げている。特に、中学校においては、指導の中心となるのは教科書であり、自主教材を扱うことは時間的な面から難しい。また、多忙な教員にとって、新たな地域教材を開発することも困難が伴う。その点、地域教材が多く記載されている他の教科書を参考に、生徒の興味・関心に沿った学習活動を設定することは容易である。また、小学校段階での地域素材に関する活動内容を理解し、つながりを意識した構成の工夫によって往還的な活動とすることで、学習者にとって一貫した学習活動となり、より豊かなコミュニケーション活動につながると考える。

以上のことから札幌市及び北海道内の市町村で採用されている令和3年度発行の小学校英語教科書および令和4年度発行の中学校教科書における、「雪」及び「雪」に関連する語や語句の掲載状況について、下記の2点を研究課題として設定し、調査をすることとした。

研究課題1：札幌市及び北海道内の市町村で採用されている小・中学校英語教科書において「雪」

及び「雪」に関する語や語句の表記はどの程度あるか。

研究課題2：上記の語や語句は、どのような学習活動を想定して掲載されているか。

5. 研究の方法について

札幌市及び北海道内の市町村で採用されている令和3年度発行の小学校英語教科書会社4社（A社、B社、C社、D社）の小学校5年生及び6年生の英語教科書8冊、令和4年度発行の中学校1年生から3年生用英語教科書9冊、総計17冊を調査し、「雪」と「雪」に関連する語や語句の記述とその想定される学習活動との関連を調査した。調査は、その語や語句が掲載されている数を単純に集計した。このため、あるページの本文でsnowという単語が使用されていて、なおかつ新出語句としても掲載されていた場合には2回として計上した。また、文法事項の説明として、例文の中にsnowが含まれており、肯定文、否定文、疑問文の展開がされている場合にも、それぞれの文にsnowが記載されていることから、同様に複数回として計上した。中学校英語教科書においては、小学校で学ぶべき語として本文で別枠扱いにし、さらに巻末のWord Listにおいて小学校で学ぶべき語、さらに中学校の教科書で新しく文字として出てきたページなど、Word Listとして何度も出現させている教科書と、小学校段階で既習のものとして扱っていて、1年生の教科書の巻末に小学校で学ぶ語としてまとめて1回掲載している教科書など扱いはそれぞれであり、単純に回数によって比較できるわけではないが、今回の調査では、単語として目にする回数という観点から、上記のように単純計上することとした。

さらに語や語句は、どの様な学習活動を想定して掲載されているのかを明らかにするために、Word List以外のものは、掲載ページに記載されている活動や各教科書のホームページに年間指導計画として挙げられている活動などを考慮しながら、

・Listening（聞くこと）

- ・Reading（読むこと）
- ・Writing（書くこと）
- ・Speaking [Interaction]（話すこと[やり取り]）
- ・Speaking [Production]（話すこと [発表]）
- ・Grammar（文法）

の6つに分類した。「読んだことをもとに書く」「聞いたことをもとに話す」など、統合的な活動の例として出現している場合もあるが、最終的にはそれがどの様な活動を目指しているかという観点から筆者が分類した。

調査に当たっては、「雪」及び「雪」に関連する語や語句の記述について、(1) snow、snowの派生語及びsnowの連語、(2) winter、(3) 冬のスポーツの3種類に分類した。

学習活動については、Word List及びGrammar以外は教科書に例示されている言語活動で分類する。また例示がない場合は札幌雪学習プロジェクトからの言語活動で分類することとする。

6. 調査結果

6.1 札幌市及び北海道内の市町村で採用されている小・中学校英語教科書における、「雪」及び「雪」に関連する語や語句の記述分析

以下、表1に小学校英語教科書における「雪」及び「雪」に関連する語や語句、表2に中学校英語教科書における「雪」及び「雪」に関連する語や語句の記述分析を記載する。小学校においてPicture Dictionaryのように学年に分類できない語や語句は総計の欄に表記する。

小学校では、読むこと、書くことについては慣れ親しむ扱いであり、教科書において文字や表現は多く記載されていない。「雪」及び「雪」に関連する語や語句の記述も少なかった。中学校では、教科書会社における違いはあるが「雪」及び「雪」に関連する語や語句は比較的多く記述されていた。中学校においては、日常的な話題について理解したり表現したりすることが求められるが、雪や季節、冬のスポーツ等は扱いやすい話題である。

表1 小学校英語教科書における「雪」及び「雪」に関連する語や語句

snow, snowy, snowfestival							
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Prodcution)	Reading	Writing	Grammar
A社5年							
A社6年							
A社計	2						
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Prodcution)	Reading	Writing	Grammar
B社5年			1				
B社6年		1	1				
B社計		1	2				
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Prodcution)	Reading	Writing	Grammar
C社5年	1	3					
C社6年		2					
C社計	1	5					
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Prodcution)	Reading	Writing	Grammar
D社5年							
D社6年	1						
D社計	1						
winter							
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Prodcution)	Reading	Writing	Grammar
A社5年			3				
A社6年							
A社計	4		3				
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Prodcution)	Reading	Writing	Grammar
B社5年		1	1				
B社6年							
B社計		1	1				
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Prodcution)	Reading	Writing	Grammar
C社5年		2					
C社6年							
C社計		2					
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Prodcution)	Reading	Writing	Grammar
D社5年							
D社6年	2		1	1			
D社計							
D社計							

表1 (続き)

ski(ing), ski jump, skate(ing), speed skating, snowboard(ing), figure skater							
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Production)	Reading	Writing	Grammar
A社5年							
A社6年							
A社計	10						
B社							
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Production)	Reading	Writing	Grammar
B社5年	3						
B社6年	2	10	1		1		
B社計	5	10	1		1		
C社							
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Production)	Reading	Writing	Grammar
C社5年							
C社6年		1	3				
C社計		1	3				
D社							
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Production)	Reading	Writing	Grammar
D社5年	1						
D社6年	1		3	2			
D社計	2		3	2			

表2 中学校英語教科書における「雪」及び「雪」に関連する語や語句

snow, snowy, snowman, snow festival, shovel snow, heavy snow							
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Production)	Reading	Writing	Grammar
A社1年	6					6	
A社2年	3						
A社3年	4						
A社計	13					6	
B社							
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Production)	Reading	Writing	Grammar
B社1年	4		1		3		4
B社2年	5						3
B社3年	5						1
B社計	14		1		3		8
C社							
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Production)	Reading	Writing	Grammar
C社1年	2				1		
C社2年		2			2		2
C社3年							
C社計	2	2			3		2

表2 (続き)

Winter							
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Production)	Reading	Writing	Grammar
A社1年	9	1	3		2	2	
A社2年	2						
A社3年	4				1		1
A社計	15	1	3		3	2	1
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Production)	Reading	Writing	Grammar
B社1年	4		4		4		3
B社2年	3		1		1		4
B社3年	2		2				1
B社計	9		7		5		8
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Production)	Reading	Writing	Grammar
C社1年	1		2		2		
C社2年			10				1
C社3年					1		
C社計	1		12		3		1
ski, ski jump(er), skate(r), snowboard(ing), ice hockey, winter sports							
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Production)	Reading	Writing	Grammar
A社1年	8		1			2	
A社2年	4						
A社3年	6		1	1	6	1	1
A社計	18		2	1	6	3	1
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Production)	Reading	Writing	Grammar
B社1年	8	3	13	2		1	6
B社2年	5						
B社3年	6		11		3		
B社計	19	3	24	2	3	1	6
	Word List	Listening	Speaking (Interaction)	Speaking (Production)	Reading	Writing	Grammar
C社1年	6	2					
C社2年	3						
C社3年	5						
C社計	14	2					

そのため、発信語彙として、単元や学年を超えて繰り返し提示されていた。学習活動としては教科書によって異なるが、日常的な話題についてのやり取りや読む活動が比較的多く見られた。

6.2 「雪」に関する学習活動

6.2.1 小学校英語教科書における「雪」に関する学習活動の例

ここでは、札幌市で小・中学校ともに採択をされているA社を例に取り上げる。

A社ではWord ListやPicture Dictionaryにsnowy、winterなどの「雪」に関する記載はあったが、単元として扱っているのは第5学年の「Unit 7 Welcome to Japan～日本の四季や文化を紹介しよう～」のみとなっている。

単元のねらいとしては「日本の四季や文化について紹介することができる。(自分のことを伝え、相手のことをよく知るために、日本の四季や文化などについて、短い話を聞いてその概要が分かったり、伝え合ったり、話したりすることができる。外国語の背景にある文化に対する理解を深める。アルファベットの活字体の大文字・小文字を書くことができる。)」ことが挙げられている。

6.2.2 小学校英語における「雪」に関する実践例

前述したように、1年の半年近くを雪にかかわって生活する札幌そして北海道の子どもたちにとって「雪」は「学校生活や地域に関することなど、身近で簡単な事柄」であり、「児童はそれらに対する自分の考えや気持ちを既にもっていたり、もたせやすかったりする」素材である。

雪学習プロジェクトでは、札幌市雪対策室を中心として札幌市教育委員会職員、小学校教諭、各区土木センター職員等によりプロジェクトチームを構成して「雪」を素材とした小学校英語の実践を重ねているところである。例えば、今回のUnit 7に対応する単元としては、雪の少ない国の出身の留学生に向けて「Welcome to Sapporo!～冬の札幌の魅力を海外の人に伝えよう!～」という

単元として学習を構成している。単元のゴールとしては、「話すこと[発表]」の学習課題を中心に動画で札幌の雪について紹介をすることとした。

図1 「Welcome to Sapporo!～冬の札幌の魅力を海外の人に伝えよう!～」の学習指導案

授業者(種谷)

The figure shows a lesson plan for 'Welcome to Sapporo! ~ Winter in Sapporo's charm, let's tell it to foreigners! ~'. The plan is structured into several sections:

- 雪学習 指導案 [外国語]**: Title and subject.
- 単元のねらい**: Lesson objectives, including understanding snow, Sapporo's snow, and introducing it to foreigners.
- 教材化のポイント**: Key points for materialization, such as using 'Snowy' and 'Winter' in context, and using video and audio materials.
- 教員のかわりポイント**: Key points for the teacher, including using video and audio materials, and using the 'Snowy' and 'Winter' materials.
- 学習活動計画**: A table with columns for 'No.', 'Main Content', and 'Lesson Points'. It details activities like 'Let's talk about snow', 'Let's learn about Sapporo's snow', and 'Let's introduce Sapporo's snow to foreigners'.
- 学習評価**: A table with columns for 'No.', 'Evaluation Item', and 'Evaluation Method'. It details evaluation items like 'Understanding of snow', 'Understanding of Sapporo's snow', and 'Ability to introduce Sapporo's snow to foreigners'.

授業者が単元前に『札幌っていいな』と感
ることがある」について全児童16人にアンケート
を取ったところ、以下のような結果が得られた。
そして、単元後に同様のアンケートを取ったと
ころ約8割の児童が札幌のことを肯定的にとらえる
ようになった。

表3 「札幌っていいなと感することがある」に
対する回答の割合

	単元前	単元後
あてはまる どちらかと言えばあては まる (%)	50	82.2
どちらかと言えばあては まらない (%)	50	18.8
あてはまらない		

事後アンケートの自由記述には「南区にはス
キー場がたくさんあって、海外の人にも人気があ
るから」「札幌の冬の魅力をたくさん知ることが
できたから」「札幌について調べたら、いろいろ
知らないことがあって楽しかった」など「留学生
に冬の札幌の魅力を伝えるため」という目的に向
かって英語表現を使い、また自分たちの地域への
興味や関心を高めながら学習を進めることができ
た。

6.2.3 中学校英語教科書における「雪」に関 する学習活動の例

A社においてwinterの初出は1年生の教科書と
なる。Storyという「読むこと」に関する記述の
中で、主人公がインターネット電話でニュージ
ーランドの姉妹校の生徒と話をしているという状況
で、気候について尋ねている場面である。日本と
ニュージージーランドでは、季節が異なることを、英
文を読むことで理解させるねらいがある。この
ページの欄外には「小学校の単語」として、
summerと比較する形で、winterが初めて文字と
して表記されている。またA社においてはUnit
Activityという技能統合型の活動が単元の終わりに
用意されている。「ポスターを作ろう」という

Unit Activityでは、「global issues（世界的問題）
やlocal issues（地域の問題）について、現状や自
分の思いを多くの人に知ってもらうためのポス
ターを作しましょう」というタスク活動が設定さ
れている。その例としてwinterの他、snowが扱
われている。特に北海道を扱っているわけではない
が、例として、We need to shovel snow in winter,
but some old people cannot do that.という文か
ら、雪国における除雪と高齢化社会、ボランティ
アといった地域の問題を「雪」と絡めて考えさせ
ている。雪は楽しむものだけではなく、立ち向か
わなければならない問題であるという認識をさせ
る点を英語においても表現していくという、小学
校よりも深い学習内容となっていた。例文を通し
て、生徒に自分たちの住む地域の問題について考
えを深め、自然条件を含めた課題と解決策を考え
るよう促している。小学校において、雪学習プロ
ジェクトの活動が設定されていれば、中学校では
そのつながりを意識したより深い学びを指揮した
活動を組むことができる。それによって学習者は、
往還的に学ぶことができ、学びの連続性を実感す
ることができる。学習者にとって、小学校の学び
が役に立った、小学校の学びをさらに深めること
ができた、小学校の時には言えなかった表現が使
えるようになったという学びの一貫性と学びの深
化を実感する機会となる。

6.2.4 中学校英語における「雪」に関する実 践例

A社では、いくつかのUnit学習の後に領域統合
的なパフォーマンス活動を扱うStage Activityが
用意されているが、2年生のStage Activity 3で
は、“My Favorite Place in Our Town”という
学習活動が用意されている。「自分の町のおすす
め場所について書き、相手にその場所の特徴や
よい点を伝えることができる」がゴールとなっ
ている。前述の雪プロジェクト「Welcome to
Sapporo！冬の札幌の魅力を海外の人に伝えよ
う！～」で身に付けた資質・能力を一層伸ばすこ
とが可能な学習活動である。まず「冬の札幌の魅

力」という題でSmall Talkを行い、小学校での活動を想起させる。その後、“My favorite place in our town during winter”と設定し、小学校での発表内容を想起させて表現させる。この時「ALTの先生に、行ってみたいと思ってもらえるように、自分の街の冬のお勧め場所を紹介しよう」であるとか、「旅行者がより多く訪れるように、魅力的に札幌の冬を紹介しよう」など、「～するように」などと目的意識をもった学習課題を設定する。これにより、学習者は思考を揺さぶられ、より深く思考し、表現方法を考えるようになる。こうした学習課題の設定が、中学校英語科における課題探究的な学習が可能となる。

7. 考察

小学校においてはA社のように「日本の四季や文化を紹介しよう」のように季節の中で「雪」を取り扱うことができる。しかし、一方でwinterを選択しない児童にとっては、当然ながら「雪」を扱うことはない。したがって子どもはwinterを選択した児童とのやり取り、または発表を通して、winterに関わる学びをすることも、という状況となる。札幌市・北海道で採択されている4社の単元でも「雪」のみに特化した単元はなく、四季の中の一つとして、あるいは好きなスポーツの一つとして、snow、skiが選ばれた場合にのみ「雪」を扱う児童が学級内にいるという学習展開となっている。

一方、中学校においては読み物教材が設定され、さらに活動については例文が記載されているため、winterやsnowを全く扱わない生徒が出ることはない。自己表現活動において、地域素材を表現しないとしても、教科書の中で扱われている地域素材に「読むこと」の中で触れたり、級友の発表を聞いたり、級友とやり取りする中で、自然と身に付けていくことが期待される。また、中学校においては、さまざまな場面で「地域のことを表現する」活動が設定されている。小学校の時に「雪」を扱わなかった生徒でも、地域教材を学んでいく

ことはできる。しかし、やはり、小学校の時に「雪」という地域素材を共通して学ぶことができれば、中学校段階で、それを基盤としてさらに発展させ、深い学びに導くことが容易であろう。言語学習においては、何度も同じテーマで繰り返し表現し、表現できることと表現したくてもまだできないことを認識しながら次の表現活動につなげ、言えることを増やしていくことが学習者の学習意欲につながる。小学校で言えるようになったことを表現しつつ、さらに中学校で新しく学んだことを付加することで、より自分の思いや考えを深く相手に伝えることができたという成功体験が言語習得に有効である。

7.1 英語教科書における「雪」を地域素材とした小中一貫教育の観点から

英語学習において中1ギャップが問題となっている。学習者においては、小学校における「聞くこと」「話すこと」を中心とした学びが、中学校において「読むこと」「書くこと」のみならず、文法指導も加わることにより、学びの質が変わったかのようなギャップを感じるものとなり、学習意欲に課題が生じたり、これまでの学びを発展的に生かしたりすることができない状況が早い段階から指摘されているが、未だ解消されているとはいえない。中学校の指導において、教えなければならぬ量や活動させなければならないことが多くなり、これまで小学校の外国語科において大切にされてきたコミュニケーションの目的や場面を大切にし、学習課題を教師と子どもたちで共有しながら、自分の伝えたいことを何度も口にしながら、ゆっくりと身に付けていくというスタイルが失われていくことも一つの要因である。

小学校の英語科で育まれた自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的なコミュニケーション力を、中学校の外国語科において、さらに深化させ、「簡単な情報や考えなどを理解したり、これらを活用して表現したり伝え合ったりすることができる力を養う」ことが求められている。このコミュニケーション力は、実際に英語を

使用して互いの考えや気持ちを伝え合う言語活動を通して育成するものである。英語学習の入門期においては、語彙や表現が十分に身に付いておらず、また一度行えば表現が定着するわけではないため、似通ったトピックで何度も往還的に活動することが大切である。これが、校種を超えて同じ様な活動が行われることで、学習者においては、小学校でやったことがある、小学校の学びが役に立ったという有用感とともに、中学校において学びが深化したという実感に結びつけることができる。また、中学校の指導においても、小学校で行った活動を基盤にすることでコミュニケーションの目的や場面を簡単に想起させることができ、容易に活動に集中させることができるというメリットがある。ただし、そのトピックは、単純に好きとか嫌いという表現で終わるものではなく、学習者が自ら意欲的に活動したいと思えるようなものであること、話題の広がりを実感できること、社会的な話題としても広がりがあること等の発展性があるものでなければ、学習者の学習意欲を維持することは難しいだろう。

以上の点から、学習活動における地域素材の活用は有効である。中学校においては、「雪」及び「雪」に関連する記述は、頻度に差はあるものの、教科書で取り上げられていることが分かった。また、A社に限らず、Small Talkに代表されるようなSpeaking [Interaction] では、冬休みの思い出を伝え合ったり、夏と冬のどちらが好きかを尋ね合ったりする活動が1年生の段階で用意されている。これらは、小学校において、季節に関連した活動を十分に行なっているという前提で設定されているものである。小学校のSmall Talkで行ったやり取りを中学校でも往還的に設定し、さらにその中で新しい表現を習得させて自己表現の幅を広げるといふねらいがある。中学校においては、小学校で行ったさまざまな活動を基盤にして行うことが学習者にとっての学びの一貫性となる。

小学校においては教科書における地域素材の記述が少なく、また、記述があったとしても、子どもの思いに基づいて選択して表現する活動が多い

ため地域素材に触れない子どもも出てくる。子どもの本当に表現したいことを保障することは大切であるので、共通して地域素材に触れさせながらも、その表現内容は子どもに考えさせるという方法がよいだろう。小学校の時に、雪学習プロジェクトのように、共通して地域素材を扱う単元があれば、そしてその活動が課題探究的な学習として設定されれば、小学校と中学校で共通して取り組む学習課題となり、一貫した学びとなり得るだろう。

7.2 今後の課題

小学校において地域素材を活用した学習活動は中学校の学習内容と密接に関連し、学習者にとって一貫性・連続性のある学びとなりうるものであることがわかった。そのためには、中学校教員が小学校での学習内容を熟知し、小学校の学習内容とのつながりを意識した学習活動の構成を工夫していくことが必要である。

今後は、小・中学校における教員が学習内容の交流を図りながら、中学校の英語教員が、小学校で身に付けた子どもの資質・能力を一層伸ばすことができるよう、小中一貫した教育を推進するための連携のあり方についてさらに検討していく必要がある。

引用文献

- 神林裕子・西森美紀 (2023) 小学校外国語における地域素材「雪」の活用—雪学習パッケージにおける現状と課題から—寒地技術論文・報告集
- 文部科学省 (2017) 小学校学習指導要領解説 外国語活動・外国語編
- 文部科学省 (2017) 中学校学習指導要領解説 外国語編
- 二五義博 (2019) 地域を題材とした小中一貫の英語学習に関する事例研究—CLILの4Cの視点より—中国地区英語教育学会研究紀要 No.49 65-74
- 札幌市教育委員会 令和2年度から使用する小学校用教科用図書の調査研究の基本方針
(https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/kyokasyo/documents/2019_e.pdf 参照日2024年3月3日)
- 札幌市教育委員会 令和3年度から使用する中学校用教

科用図書及び中等教育学校前期課程用教科用図書の調査研究の基本方針

(<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/kyokasyo/documents/0102chuugakkou2020-1.pdf> 参照日2024年3月3日)

札幌市教育委員会 令和5年度札幌市学校教育の重点

(https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/top/juten/documents/05_jyuten_full.pdf 参照日2024年3月3日)

札幌市教育委員会 令和2年2月札幌市小中一貫した教育基本方針

(<https://www.city.sapporo.jp/kyoiku/sidou/documents/kihonhoushin.pdf> 参照日2024年3月3日)

札幌雪学習プロジェクト

(<https://www.city.sapporo.jp/kensetsu/yuki/yukigakushu/index.html#yukigakushuu> 参照日2024年3月3日)

高橋庸哉・志摩長生・紺野高裕 (1994) 雪を科学する
—地域環境の教材化と活用—「子どもと環境—しなやかな教科教育を求めて—」所収 東京書籍

丹藤永也 (2020) 英語科における地域教材の意義とあり方について 青森公立大学論纂 第6巻第1号 3-13.

(中村 邦彦 教職大学院札幌校特任教授)

(神林 裕子 札幌国際大学短期大学部准教授)

(種谷富茂華 札幌市立藤の沢小学校教諭)